

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

プロジェクト名	おおやまざき安心安全プロジェクト		実施期間	平成28年度	テーマ	まちの安心・安全	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本町は、狭小な町域の西部には天王山が、東部には桂川が位置しており、自然が豊かである反面、豪雨による河川の氾濫や土砂災害等の自然災害が発生する危険性を多数有している。近年は、豪雨により避難に関する情報をたびたび発令しており、その頻度も増加している。そのため、設備、資機材や物資の整備等を充実させるハード面と、住民の高齢化や連帯意識に希薄化などにより対応力が低下している地域の自主防災組織の強化や防災意識向上のための啓発などのソフト面との両面から、町に在住の方、町に勤務される方、また、観光で来町される方等すべての方が安心安全でいられるように、災害に強く、そして、過ごしやすいまちづくりを行う必要がある。また、そのために自助、共助、公助がそれぞれの役割を認識しながら、力を合わせる事が求められている。本町住民向けに実施している大山崎町出前講座では、「災害にそなえて」のテーマが毎年最も多く要望があり、住民のニーズと意識の高さが現れている。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>平成28年度予算の重点施策の一つとして、「大山崎町総合計画」及び「大山崎町地域防災計画」の基本理念に基づき作成。これらの計画策定の際にはパブリックコメント等を実施し、住民の意見等を一定取り入れている。 地域の自主防災組織や大山崎町社会福祉協議会等、住民や各種団体と行政が連携を図り、プロジェクトの実現を目指す。</p>							
	総事業費（千円）	57,101	本年度事業費（千円）	57,101	交付金額（千円）	2,991		
プロジェクトを構成する事業の平成28年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	避難所備蓄物資整備計画事業	交付対象事業	避難所に災害時備蓄物資を配備。			災害備蓄用食料2,500食、飲料水3,720本、毛布200枚		
	災害ボランティアセンター活動支援事業	交付対象事業	常設化した災害ボランティアセンターの活動資金を補助。			社会福祉協議会に対して150,000円。		
	避難所Wi-Fi環境整備事業	交付対象事業	災害時の情報通信手段確保を目的に避難所にWi-Fi環境を整備。			ふるさとセンター、第二大山崎小学校に整備。		
	防犯カメラ設置事業	交付対象事業	犯罪抑止効果を高めるべく防犯カメラを設置。			町内主要5箇所を設置。		
	下植野団地側溝改修事業	交付対象事業	老朽化した側溝の改修、排水能力の向上及び開渠側溝を暗渠化することによる路肩の有効利用をはかる。			側溝工492m、管渠工61m、舗装工1,533m <sup>2</sup>		
	円明寺が丘団地側溝改修事業	交付対象事業	老朽化した側溝の改修、排水能力の向上及び開渠側溝を暗渠化することによる路肩の有効利用をはかる。			側溝工260m、管渠工28m、舗装工619m <sup>2</sup>		
	雨水排水ポンプ場整備事業	関連事業	大山崎排水ポンプ場建設事業の先行工事として、旧棟の解体、既設電源の移設を実施。			旧棟解体工事・電気設備移設工事 計38,258千円		
	汚水中継ポンプ場長寿命化対策事業	関連事業	長寿命化計画（H26）に基づき、災害時などに下水道の機能停止を回避するため、非常用発電設備等の更新事業を実施。			非常用発電機・補機類更新 1式計24,731千円		
	円明寺線第48号新設工事	関連事業	安全な通学路を確保するため、人道橋を新設します。			PC上部工 1橋 取付歩道一式		
	同報系防災行政無線整備事業	関連事業	デジタル無線による同報系防災行政無線を新規整備。			平成29年度に事業繰越。		
住民 協働 事業	自主防災組織支援事業	交付対象事業	町内自主防災組織の活動に対して補助金を支出。			7団体に計287,257円を支出。		
	総合防災訓練事業	交付対象事業	町防災会議を主催者として住民参加型訓練を実施。			大山崎町立体育館において2月26日に実施。		
住民が取 り組む事 業	住宅の耐震改修促進事業	関連事業	耐震改修の促進を図るため、一定の要件を満たす木造住宅について、耐震診断及び改修を行った場合の一部を補助。			診断：4件、簡易改修：1件		

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

成果指標 ①	成果指標の目標数値	避難所備蓄物資数量：【飲料水】21,623本 【食料】11,477食（2,500食増）		成果指標の実績値 （平成29年3月31日時点）	避難所備蓄物資数量：【飲料水】18,025本 【食料】10,696食（2,500食増）	
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	消費期限到来に伴う物資の入替があるが、目標の近似値であるため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）	
成果指標 ②	成果指標の目標数値	町内自主防災組織率（世帯換算）：43%		成果指標の実績値 （平成29年3月31日時点）	自主防災組織率（世帯換算）：40.2%	
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	設立の動機付けが困難であり、組織率が伸び悩んでいるが、水害常襲地域などにはほぼ組織されたため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）	
成果指標 ③	成果指標の目標数値	防犯メール登録者数：1,800人		成果指標の実績値 （平成29年3月31日時点）	防犯メール登録者数：2,538人	
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	同報系防災行政無線整備に伴い、放送内容確認のために登録する方が増えたもの。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）	
成果指標 ④	成果指標の目標数値	災害ボランティアセンターによる研修会への参加者数：5名		成果指標の実績値 （平成29年3月31日時点）	災害ボランティアセンターによる研修会への参加者数：5名	
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	災害ボランティアにかかる啓発と住民意識の高さによる。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）	
成果指標 ⑤	成果指標の目標数値	避難所Wi-Fi機器設置箇所：3箇所		成果指標の実績値 （平成29年3月31日時点）	避難所Wi-Fi機器設置箇所：3箇所	
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	事業計画通り事業実施したため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）	
成果指標 ⑥	成果指標の目標数値	防犯カメラ設置（新規）：5台		成果指標の実績値 （平成29年3月31日時点）	防犯カメラ設置（新規）：5台	
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	事業計画通り事業実施したため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）	

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

<p>本年度の事業実績が 成果指標の達成に与え た効果</p> <p>※未達成の場合も効果 を記載すること</p>	<p>ハード面における避難所Wi-Fi環境整備、防犯カメラ設置、ソフト面における総合防災訓練実施、災害ボランティアセンター活動補助、自主防災組織への活動補助金継続支出などにより、大山崎町民の「防災意識の高揚」を図ることで、自主防災組織設立気運の高揚や、防災・防犯情報メール登録の動機付けに繋がっている。今後も、引き続きハード・ソフト両面で防災・減災対策に努め、安心・安全のまちづくりを推進する。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。</p>	
<p>本プロジェクトに 対する自己評価</p>	<p>関連事業との連携効果</p>	<p>防災対策においてはハード・ソフトの両面をバランスよく整備することが肝要であるが、関連事業も含めた総合的な防災レベルの向上が図れており、そのまま大山崎町民の防災意識の高揚に繋がっている。また、道路、雨水排水能力の向上により、道路冠水の発生抑制が見込まれ、避難経路の安全性が向上する。</p>
	<p>府と市町村等との連携に資する成果</p>	<p>防災は広域にわたって行うべき事項であり、府内市町村を含め、災害時に協力し合う事業として位置付けている。避難所備蓄物資の運用においては、府と市町村は必要備蓄量の半分をそれぞれ備蓄することとしており、効果的に実施できている。</p>
	<p>住民の自治意識を高める成果</p>	<p>有事の際には、町内の安心安全は「公助」にだけでなく、「自助」「共助」の精神が必須である。防災メール登録者数の増加などから、「自分のことは自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守る」という「自助」「共助」の意識が高まっており、自治意識の高揚にも効果を図ることができた。</p>

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

プロジェクト名	おおやまざき子どもの成長サポートプロジェクト		実施期間	平成28年度	テーマ	少子・高齢化	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>おおやまざきの未来を支える子どもたちを育むことは行政の責務であり、将来を見据えた学びの場を提供することが必要である。昨今、ICT分野の発展には目を見張るものがあるが、より効果的に子どもたちの学力を高め、高度情報化社会に活躍する人材を育て上げるため、学びの場においてもICTを活用する必要がある。</p> <p>本町の教育施設に関して、大山崎小学校及び第二大山崎小学校はそれぞれ昭和40年代建築と老朽化しており、その改修及び修繕は喫緊の課題となっている。また、中学校においては、保護者等から学校給食の要望があるため、先行してスクールランチの導入を試みていたが、今後は本町に適した給食実施方法を新たに検討するニーズが生じている。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>平成28年度予算の基本コンセプトである「笑顔がうまれるまちづくり」に基づき、子どもたち自身だけでなく、育てる側、見守る側も笑顔になれるよう、子育て及び学びの環境の改善を進める。</p> <p>なお、本町はただいま「勝負の聖地」として地方創生に取り組んでいるところである。本プロジェクトと、おおやまざき魅力増進計画プロジェクトを合わせて推進することで、夢を追う子どもたちそれぞれの「天王山」の挑戦をサポートする「勝負の聖地」をキーワードとする地方創生の取り組みを、一層推進する。</p>							
	総事業費（千円）	53,263	本年度事業費（千円）	53,263	交付金額（千円）	3,232		
プロジェクトを構成する事業の平成28年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	大山崎町学校給食導入検討支援業務	交付対象事業	中学校給食導入に向けた検討支援。			検討委員会を立ち上げ、中学校給食導入に向けた答申を得た。		
	町立小学校トイレ改修事業	交付対象事業	老朽化の著しいトイレの改修工事を実施。			校舎トイレ改修：3箇所		
	第二大山崎小学校施設修繕事業	交付対象事業	老朽化の著しい校舎の改修を実施。			校舎不具合箇所の修繕を実施。		
	町立小学校デジタルテレビ整備事業	交付対象事業	デジタルテレビの整備。			7台のデジタルテレビを整備		
	大山崎中学校デジタル教科書購入事業	交付対象事業	デジタル教科書の導入。			6教科のデジタル教科書を導入		
	保育所空調設備改修事業	交付対象事業	保育所の保育室に設置しているエアコンの更新工事を実施。			保育所2ヶ所で実施（計3台）		
	子育て支援医療費助成事業	関連事業	府で実施している医療費の一部を助成する制度に町独自で助成内容を拡充。			H28年度決算見込：43,539,442円（府制度も含む）		
	特別支援教育推進事業	関連事業	特別な支援を必要とする児童に対する支援員の配置。			支援員を配置することにより、個に応じたきめ細かな教育環境の構築に寄与した。		
	小規模保育事業整備補助金	関連事業	増加する保育所ニーズに対応するため、0歳児から2歳児までの受け皿確保のために小規模保育施設を整備。			平成29年4月～2ヶ所開所（定員計30名）		
住民 協働 事業	放課後児童健全育成事業	関連事業	3施設5クラブにおいて、現状小学1年生～4年生（要件を満たす場合は6年生まで）の家庭内保育に欠ける児童を受け入れ。			平成28年度当初在籍児童数217人		
	交通指導員配置事業	関連事業	児童の登下校時の安全確保。			交通指導員の配置：町内3箇所		
住民が 取り組む 事業	子育て支援事業	関連事業	子育て支援センター「ゆめほっぺ」での交流活動を実施。			月1～2回程度実施		
成 果	成果指標の目標数値	小学校トイレ改修（必要箇所：14か所）：10箇所改修		成果指標の実績値 （平成29年3月31日時点）	小学校トイレ改修：3か所 （計10か所改修済み）			

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

果 指 標 ①	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	年次計画に基づき、本年度に予定していた工事を竣工することができた。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成 果 指 標 ②	成果指標の目標数値	小学校給食室空調設置（新規）：2室		成果指標の実績値 (○年○月○日時点)	—	
	成果指標の達成状況	—	(左の理由)	事業中止のため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成 果 指 標 ③	成果指標の目標数値	保育所空調更新：2基		成果指標の実績値 (平成28年6月末時点)	保育所空調更新：3基	
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	目標数値どおり達成したため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成 果 指 標 ④	成果指標の目標数値	保育所駐輪場設置：1か所		成果指標の実績値 (○年○月○日時点)	—	
	成果指標の達成状況	—	(左の理由)	当初駐輪場の設置を予定していたが、現場の状況等の再度確認したところ事業実施を見送りとしたため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成 果 指 標 ⑤	成果指標の目標数値	小学校デジタルテレビ設置（新規）：7台		成果指標の実績値 (平成29年3月31日時点)	7台設置	
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	年次計画に基づき、本年度に予定していた整備を終えた。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成 果 指 標 ⑥	成果指標の目標数値	中学校デジタル教材購入（新規）：6教科		成果指標の実績値 (平成29年3月31日時点)	6教科導入	
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	予定していた教科数のデジタル教科書を導入するすることができた。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

<p>本年度の事業実績が 成果指標の達成に与え た効果</p> <p>※未達成の場合も効果 を記載すること</p>	<p>中学校給食導入を見据え、小学校給食室空調設置を見送ることとなった。小学校トイレ改修工事は、老朽化の著しい施設環境を改善し、また、保育所2ヶ所において、経年劣化により特に夏場の冷却能力に支障が生じていた空調設備を更新したことにより良好で快適な環境整備ができた。さらに、ICT機器の整備、デジタル教材の導入により、学習意欲の向上に資することができたものとする。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。</p>	
<p>本プロジェクトに 対する自己評価</p>	<p>関連事業との連携効果</p>	<p>国・府に付随する補助事業では対応できないきめ細やかな事業について、地域住民の力を活用して子育て支援を実施できた。</p>
	<p>府と市町村等との連携に資する成果</p>	<p>子育て支援医療助成事業について、府制度をもとに町制度により制度を拡充することで、より一層の子育て中の保護者の経済的負担が図られ、子育てしやすい環境づくりにつながっている。</p>
	<p>住民の自治意識を高める成果</p>	<p>地域住民による地域力を活用することで、学校・家庭・地域の連携による子育て環境の充実を図り、社会全体での子育て支援を推進することで、自治意識の高まりが考えられる。</p>
	<p>その他の成果</p>	<p>老朽化の著しい小学校施設の改修工事、保育所空調施設の更新を実施し、安全、安心な環境、および快適な環境の整備に繋がった。</p>

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

プロジェクト名	おおやまざき魅力倍増計画プロジェクト		実施期間	平成27年度～平成28年度	テーマ	地方創生	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本町は、天下分け目の山崎合戦で有名な天王山と、桂川・宇治川・木津川の三川が合流する地に囲まれた自然豊かな土地であり、古くから京の都の玄関口として栄え、中世にはエゴマ油の生産、販売により長く自治都市として繁栄するなど、歴史も豊富な魅力あふれる町である。町内での暮らしにおいては、阪急電鉄及びJR西日本の駅が町内にあり、また名神高速道路と京都縦貫道の交差するJCTがあるなど、大阪市内あるいは京都市内への通勤・通学に便利な交通の要衝となっている。しかしながら、「天王山」という語は知られていても、それが大山崎町に実在する山であるということはさほど知られておらず、大山崎町の認知度は決して高くないため、さらなる本町の魅力の発信、プロモーションが課題となっている。一方、近年、住民団体、地域団体が祭りを主催するなど、住民が主体となったまちおこしの活動が芽生えているが、取り組みを継続・発展させるため、地域活性化活動への支援を求める声もあり、町の魅力発信と合せて課題となっている。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>「大山崎町総合計画」及び「大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、町民、町内各企業及び行政等各関係機関が連携して、ここ一番の勝負の代名詞「天王山」を前面に出した「勝負の聖地」をキーワードにしたプロモーションによって大山崎町の魅力の倍増を図り、町への来訪者を増加させ、合わせて住民は一層の住みやすさを、町内企業に勤務をしている人は一層の働きやすさを実感できるよう、取り組みを行っているところである。本プロジェクトに掲げた具体的な事業の推進を通じて、地域経済を活性化させ、住民の我が町への愛着を育み、一層、地域創生の取り組みを加速させる。</p>							
	総事業費（千円）	17,475	本年度事業費（千円）	17,475	交付金額（千円）	2,660		
プロジェクトを構成する事業の平成28年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）			
市町村 実施事業	史跡大山崎瓦窯跡整備事業	交付対象事業	<p>史跡の遺構を保存するための環境整備を行う（町）・賃金（調査補助員等）754千円、報償費（講師謝礼等、整備委員謝金）216千円、旅費（費用弁償、普通旅費、特別旅費）61千円、需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費）1,035千円、役務費（通信運搬費、手数料）88千円、委託料（測量、発掘調査、実施設計、監理）4,073千円、使用料及び賃借料（備品・プレハブ等借上げ料、機械等借上げ料）320千円、工事請負費（施設整備工事）6999千円、原材料費（諸材料費）54千円</p>		<p>発掘調査：2基の瓦窯を新たに検出した。活用に向けて5号窯の詳細なデータを採取した。 環境整備工事：撤去工事（コンクリート解体14㎡等）、土工事（土砂掘削577㎡等）、雨水排水工事（側溝65.4m等） 施工監理 基本設計並びに実施設計：遺構保存整備・園路広場・学習施設・安全施設・休養施設・植栽等</p>			
	鳥居前古墳用地取得・整備事業	交付対象事業	鳥居前古墳の用地取得及び整備（町）・役務費162千円		史跡指定予定地の価格調査を実施した。			
	歴史資料館企画展開催事業	交付対象事業	第24回企画展「堺と大山崎-自治都市の系譜」を開催（10月22日～11月27日）		開催期間中の入館者数実績：1,608名			
	東黒門跡説明板整備事業	交付対象事業	文化財説明板（大山崎東黒門跡）製作 業務委託		西国街道沿いの見学スポットとして定着している。			
	「天王山」PR事業	関連事業	町のシンボルで、ここ一番の勝負の代名詞となっている「天王山」にちなみ、勝負の聖地として町をPRする。		地方創生加速化交付金を活用して「天下取りブランド構築事業」を実施。岐阜県関ヶ原町と「どちらが天下分け目の地か」というテーマで競い合い、天王山、そして大山崎町をPRした。この対決はテレビなどのメディアに多数取り上げられ、広告換算で1億3千万円を超えている。			
	観光PRスマホアプリの構築	関連事業	観光PRのためのスマホアプリを開発することで、町へ観光することへの魅力を高める。		AR機能による山崎城の復元、山崎合戦にゆかりのある場所で動画再生、登録店舗での特典等を楽しみながら散策ができる体験型観光アプリを構築した。			

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

	「秀吉の道」周辺樹木等整備	関連事業	ハイキング道を整備することで、来訪者の満足度を向上させ、魅力向上につなげる。	旗立松展望台、青木葉谷展望広場の眺望支障樹木を伐採。また、天王山ハイキング道の維持管理を実施し、天王山ハイキングの魅力向上を図った。	
	町ホームページ運営事業	関連事業	町内外に、町政や町の観光地などの情報を発信する。	町HPは年間約29万アクセス（トップページ）。年度末にリニューアルを実施し、特設観光サイトを設けて、町の魅力を発信している。	
	町広報誌発行事業	関連事業	町民に、町に関する各種情報を届け、町の魅力を再確認してもらうとともに、町政への理解を求める。	毎月1回、年12回発行（各7,000部）。積極的に特集記事を組み、町民と町の課題共有に努めている。	
	市場開拓調査事業	関連事業	DMOを活用することで、町の魅力を発信する場を強化する。	地方創生加速化交付金を活用した「天下取りブランド構築事業」の中で、広告掲出を通じて調査を行った。	
	大山崎ふるさとガイドの会支援事業	関連事業	活動に対して毎年度補助金を支出するほか、社会教育関係団体交流会を開催し、団体間の横の連携を支援。	平成28年度補助実績18万円。年間ガイド実績は平成28年度約1,435件（約6,241人）。	
住民 協働 事業	まちづくり推進事業	交付対象事業	これからのまちづくりを町民と共有するため、懇談会や講演会等を開催、広報まちづくりサポーターの募集。	「広報まちづくりサポーター」に町民2名を委嘱。平成29年4月号から毎月の広報誌に、サポーターが作成する記事を掲載する。	
	文化を未来に伝える次世代育み事業	関連事業	子ども歴史クラブ「こんべいどうをつくる!」夏休み子ども歴史教室「南蛮兜をつくってみよう!」	クラブ 28名、歴史教室 25名	
	魅力ある地域づくり支援事業	交付対象事業	地域のコミュニティの創出を目的としたイベントを開催。	商工会青年部の主催で平成29年3月26日に「Oh 灯りまつり」を開催。	
住民が取り組む事業	地域活性化事業	交付対象事業	地域活性化に取り組む町内の団体等へ補助金を交付。	地域団体の主催で平成28年11月6日に「天王山ゆひまつり」を開催。1,500人の来場者があり、盛況であった。	
成果 指標 ①	成果指標の目標数値	本町観光入込客数：485,000人		成果指標の実績値 (平成29年3月31日時点)	512,000人
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	各施設の自助努力による見学内容の充実や、町の観光PRの取り組みによる知名度アップに伴って、来訪者が増えたものと思われる。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)
成果 指標 ②	成果指標の目標数値	歴史資料館入館者数：9,500人		成果指標の実績値 (平成29年3月31日時点)	8,131人
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	企画展の入館者数が思うように伸びなかったため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)
成果 指標 ③	成果指標の目標数値	メディアへの露出・掲載回数（新規※比較数値なし）：24回		成果指標の実績値 (平成29年3月31日時点)	85回
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	地方創生加速化交付金事業「天下取りブランド構築事業」では、関ヶ原町との「天下分け目の対決」という特色ある打ち出しによって、全国放送を含めて多数のメディアに取り上げられることとなった。広告換算で1億3千万円以上の効果が出ている。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

<p>本年度の事業実績が 成果指標の達成に与え た効果</p> <p>※未達成の場合も効果 を記載すること</p>	<p>独自の切り口による町のPRの効果により、大山崎町の知名度が上がり、大山崎町に関心を持つ人が増え、訪れる人が増えたものと思われる。 歴史資料館企画展では、地元に関連する重要文化財を展示することで、その保護・啓発に努めることができた。特に大山崎町の文献史料が大阪府域の地域史に資 することを紹介することができた。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。</p>	
<p>本プロジェクトに 対する自己評価</p>	<p>関連事業との連携効果</p>	<p>鳥居前古墳は、国史跡乙訓古墳群の一つであり、将来的には広域で普及啓発に取り組む性格の古墳である。今回は、保存・公有地化にむけた事前作業として土地見込み評価を得た。 子ども歴史クラブ「こんべいとうをつくる!」、夏休み子ども歴史教室「南蛮兜をつくってみよう!」では、大山崎町と堺市との関係について、喚起することができた。</p>
	<p>府と市町村等との連携に資する成果</p>	<p>歴史街道推進業議会リレートークが本町で行なわれることによって、阪神間に歴史資料館の存在を知らしめる要因となった。また、企画展では、大阪府堺市やその周辺の地域との歴史的関係が明らかとなり、大阪府自治体との連携の糸口をつくった。また、西国街道沿いの説明板設置では、同道を歩く方々に宿場町であった大山崎町を啓発する場をつくった。</p>
	<p>住民の自治意識を高める成果</p>	<p>企画展自体が都市自治を取り扱ったテーマであり、自治意識が高める契機となった。特に、地域の共同体が鎌倉時代後期まで遡ることが確認され、全国的にも自治意識が高い街であったことがわかりつつある。さらに自治の象徴ともいえる東黒門跡の説明板を設けることで、自治都市と関連する場を啓発した。</p>
	<p>広域的波及成果</p>	<p>岐阜県関ヶ原町と「どちらが天下分け目の地か」というテーマでPR合戦を行い、この対決がテレビなどのメディアに多数取り上げられたことでそれぞれ観光入込客数の増が見込まれ、ともに相乗効果が期待できる。</p>
	<p>その他の成果</p>	<p>史跡大山崎瓦窯については、平安京造営を考える上で、重要な遺跡であり、整備のための発掘調査で重要な知見を得た。将来もまちづくりを行う上でも、有益な成果といえる。 企画展、現地見学会で、大山崎町歴史資料館と堺市立「さかい利晶の社」の両方を見学し、ともに日本史上代表的な自治都市であることを紹介した。</p>

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

プロジェクト名	緑あふれるおおやまざきプロジェクト	実施期間	平成28年度	テーマ	環境保全	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本町は、町域の西半分が天王山を中心とした山地の緑に覆われ、南部には桂川が流れて広い河川敷が形成されており、自然と緑が豊かな環境にある。住民が毎日目にし、住民の心のよりどころとも言える天王山は、多様な植生を誇る野鳥の宝庫でもあり、都市近郊にも関わらず自然生態がよく保たれている貴重な場所となっている、地元住民にとっての癒しの場であるとともに、年間約16万人もの多くのハイキング客が訪れる賑わいの場でもある。町ではたまたま、このここの勝負の代名詞ともなっている天王山を前面に出し、「勝負の聖地」として地方創生の取り組みを進めているところである。ところが近年、天王山の植生は徐々に竹林が広がっており、手を加えず放置すると、放置竹林が雑木林等を侵食し、豊かな自然環境と多様な生態系が失われてしまう恐れがある。これらの環境を維持するためには、定期的な整備が必要であり、その担い手の育成が課題となっている。</p>						
プロジェクトの目的及び概要	<p>天王山を中心として、豊かな自然を維持するために森林整備を行う。また、今後の自然環境を維持・保全するため、「緑の基本計画」を改定し、本町の目指すべき方向とその施策をまとめる。そして、本プロジェクトの取り組みを通じて、勝負の聖地のシンボルとしての天王山、あるいは町民の心のよりどころとしての天王山を保全し、本町の地方創生の取り組みを一層、加速させる。</p>						
	総事業費（千円）	4,710	本年度事業費（千円）	4,710	交付金額（千円）		1,596
プロジェクトを構成する事業の平成28年度事業実績（出来高数値等）							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	緑の基本計画改定業務	交付対象事業	計画目標を平成37年まで延長し、京都府の上位計画や第4次総合計画・都市計画マスタープランなどに即する計画の実現を		生産緑地地区の指定（H25～H27）や公園サポーター（7団体）・公園花のアンバサダー（2団体）制度の制定。		
	天王山作業道整備事業	交付対象事業	平成28年9月豪雨災害に係る作業道の崩土の搬出。		土砂撤去作業：3箇所（6.0㎡）		
	水資源保全事業	関連事業	放置竹林の皆伐し広葉樹林の造林。		皆伐面積：0.72ha		
	森林病虫害駆除業務委託	関連事業	カシノナガキクイムシの防除による被害木の伐採、くん蒸処理。		伐採面積：1.40ha		
	天王山森林整備拠点整備事業	関連事業	森林の鳥獣被害の防止及び森林整備のための新規拠点施設の整備。		新規拠点施設の整備：1箇所		
	天王山森林整備事業	関連事業	天王山の拡大竹林・放置森林を伐採し広葉樹林を造林。		伐採面積：2.08ha		
住民協働 事業	企業・大学連携による森林整備活動	交付対象事業	天王山の拡大竹林・放置森林の伐採。		伐採面積：0.15ha		
住民が 取り組む 事業	自然環境保全事業	交付対象事業	小学生、中学生、一般公募参加者とボランティアの協力による天王山の環境整備。		整備面積：0.8ha		
	公園管理サポーターアンバサダーの支援業務	交付対象事業	公園の民間活力による、協働参画事業の補助。		公園管理サポーター7団体13公園、公園花のアンバサダー2団体2公園		
成果 指標 ①	成果指標の目標数値	天王山の環境整備、森林整備への参加者数（関係者外）：260人		成果指標の実績値 （平成29年3月31日時点）	天王山の環境整備、森林整備への参加者数（関係者外）：580人		
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	参加者数に環境学習を実施した小中学校の生徒を含めたため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）		

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

成果指標 ②	成果指標の目標数値	天王山森林整備実施回数：3回		成果指標の実績値 (平成29年3月31日時点)	天王山森林整備実施回数：4回
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	目標としていた実施回数よりも多く実施することができたため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)	
成果指標 ③	成果指標の目標数値	小中学生による天王山の環境整備実施回数：3回		成果指標の実績値 (平成29年3月31日時点)	小中学生による天王山の環境整備実施回数：3回 (小学校2回、中学校1回)
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	年次計画に基づき、本年度に予定していた事業を実施することができたため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)	
本年度の事業実績が 成果指標の達成に与えた効果  ※未達成の場合も効果を記載すること	<p>企業、大学、ボランティアとの連携による森林整備や、小学生・中学生、住民の協力による天王山の環境整備を通じて、より多くの主体が森林に親しみ、作業を通じて充実感が得られ、参加主体同士が連携できる機会を醸成することができたものとする。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。</p>				
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	ボランティア団体、企業、大学、小中学校等の活動により、広範囲で天王山を整備することができた。			
	住民の自治意識を高める成果	山を守っていくためには、森林整備や放置竹林の伐採が必要であることについて、実際に整備活動を行うことで住民の理解を深めることができた。			

(記載要領)

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

プロジェクト名	おおやまざきホストタウンプロジェクト	実施期間	平成28年度	テーマ	地域振興	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>大山崎町は、昭和63年の京都国体においてフェンシング競技の主会場となったことを契機として、オリンピックの太田雄貴選手がジュニア時代に所属していたクラブ（フューチャーフェンシングクラブ）が今なお活発な活動を続けているなど、フェンシングが盛んな土地柄である。平成32年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、各種媒体を活用した広報・啓発や住民参加行事を通じて、「フェンシングのまち・おおやまざき」が町一体となり、本プロジェクトの意義や効果を継続的に訴え、住民理解の拡大や、機運の醸成を図っていく必要がある。</p> <p>なお、平成27年度に策定した「大山崎町教育振興基本計画（第2期）」の中で、これからの英語教育の充実、コミュニケーション能力や相互理解の促進など、地域のグローバル化に向けた取り組みを展開する計画を掲げており、本プロジェクトはその推進に資するものと位置付けている。</p>						
プロジェクトの目的及び概要	<p>地元のフェンシング協会と所縁のあるスイスのフェンシングチームの事前合宿誘致を進め、フェンシング選手のみならず、住民間の交流を促し、スイスの言語や文化との接触を通じて国際理解を進め、一方で「フェンシングのまち・おおやまざき」「勝負の聖地・大山崎」の海外への周知を図る。さらに、事前合宿地会場となる町体育館の機能向上、日本体育大学との協定に基づくスポーツ振興などの施策を展開し、スポーツによる地域づくり、さらには本町の地方創生のテーマである「勝負の聖地」化を一層推し進める。</p>						
	総事業費（千円）	1,930	本年度事業費（千円）	1,930	交付金額（千円）		388
プロジェクトを構成する事業の平成28年度事業実績（出来高数値等）							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	ホストタウン構想事業	交付対象事業	2020東京オリパラ出場国等との交流を図り、地域活性、観光振興、国際交流等を推進。		スイスフェア：1回、国際理解講座：3回、オリンピック／パラリンピアン交流企画：各1回 ほか。		
	「フェンシングのまち・おおやまざき」推進支援事業	交付対象事業	全国の小中学生を対象とするフェンシング大会（実行委員会形式）のほか、小学校でのフェンシング体験授業などを実施。		大会出場選手数：430名。 フェンシング体験授業対象：町内の小学3年生全児童。		
	体育館営繕事業	交付対象事業	オリパラ事前合宿誘致に向けた体育館機能向上を目的とした改修（照明改修、EV設置等）のための設計業務を実施。		平成29年度工事实施に向けた詳細設計を完了。		
住民 協働 事業	日本体育大学連携事業	交付対象事業	大学連携による人材交流、知識や技術の向上。		日本体育大学に小学生17名を1泊2日の日程で派遣。		
	スポーツ・レクリエーション振興事業	関連事業	体育協会、総合型地域スポーツクラブ等と連携、協調してスポーツ振興を推進。		町体育館の延べ年間利用者数約5万5千人。総合型地域スポーツクラブでは、フェンシング教室を年4回開催。		
	スポーツ指導者・推進員充実事業	関連事業	スポーツ推進委員を委嘱、協議会を組織し、各種スポーツの指導体制を充実。		委嘱委員数：10名。		
住民が 取り組む 事業	英語教育推進事業	交付対象事業	ジュニア英語検定受験料への補助の実施、英語学習発表会の実施。		ジュニア英語検定受験者数：69名 英語学習発表会発表児童生徒数：65名		
成果 指標 ①	成果指標の目標数値	「ホストタウン事業認定記念」国際理解講座（4回シリーズ）： のべ参加人数100人		成果指標の実績値 （平成29年3月31日時点）	「ホストタウン事業認定記念」国際理解講座（3回シリーズ）： のべ参加人数99人		
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	実績は3回であったが、参加神通99人と目標の近似値であったため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）		
成 果	成果指標の目標数値	「大山崎町 天王山カップ少年少女フェンシング大会」： 参加人数500人、スイス人少年少女参加人数3人		成果指標の実績値 （平成29年3月31日時点）	「大山崎町 天王山カップ少年少女フェンシング大会」： 参加人数430人、スイス人少年少女参加人数0人		

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：大山崎町

果 指 標 ②	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	スイス人の少年少女の参加者をなしであったが、参加人数430人と目標の近似値であったため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成 果 指 標 ③	成果指標の目標数値	ジュニア英語検定受験者数：50人		成果指標の実績値 (平成29年3月31日時点)	受験者数：69名	
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	当初見込んでいた50名を超える69名の児童が受験したため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	ホストタウンに係る事業に、多くの方が参加され、学習意欲の向上につながったと考える。このような取り組みを契機に外国への関心を高め、今後国際理解、国際交流へと大きく寄与するものとする。					
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。					
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	中学生を対象に行ったパラリンピアンによる講演会を通じて、障がい者理解促進に係る教育効果を得ることができた。				
	府と市町村等との連携に資する成果	スイスフェア開催にあたり、府が管理する大山崎山荘庭園を会場とし、開催内容について府との協議や情報共有を重ねたこと、セレモニーに府関係者の列席を得たこと等、府との連携強化を図ることができた。				
	住民の自治意識を高める成果	スイス人との交流を趣旨としたスイスフェアを通じて、参加した団体、一般参加の町民の機運醸成、自治意識の高揚に寄与することができた。				
	広域的波及成果	ホストタウンの取り組みが報道されることを通じて、町のホストタウンの取組のみならず、広域的な町のPRに波及した効果を得ることができた。				
	その他の成果	民間社会教育関係団体である国際交流協会の会員増、活動の活性化等の波及効果が出ている。また、小学校・保育所の給食で交流相手国であるスイスの料理を提供することで、食育の充実にも効果を得ることができた。また、本事業を契機に英語へ関心を持ち、グローバル化に対応した人材の育成に繋がるものとする。				

(記載要領)

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。